

2026年度JMAAB WG/WS/委員会 活動概要紹介

WG/WS/委員会名	幹事	参加企業数
1. Plant Model WG	トヨタテクニカル開発	11 (1)
2. 制御モデリングガイドラインWG	ニデックモビリティ	9
3. 次世代WS	ヤンマーホールディングス	5 (1)
4. AI活用WS	アイシン・ソフトウェア	7 (2)
5. Simulink機能確認WS	豊田自動織機	5
6. Polyspace機能確認WS	アイシン	7
7. JAMBE連携推進委員会	ネクスティ エレクトロニクス	3

Plant Model (PM) WGでは、プラントモデルの利活用を促進するため、これまで「モデル流通」「モデリング技術」「プラントモデル教育」、について活動を行ってきました。

2025年度からはさらなるプラントモデル利活用のため、次の2点について議論をスタートしました。これを2026年度も継続します。

- ① **プラントモデルガイドライン**：過去や他団体など関連するガイドラインを参考にしながら、**Simscapeによるモデリングガイドライン**を検討・作成
- ② **サロゲートモデル化**：複数の低次元化モデリング手法を比較し、特徴をまとめる

制御モデリングガイドラインWGでは、CMG (Control Algorithm Modeling Guideline) Ver6.1のリリース (2023年9月) 後、

- 再検討が必要なことからVer6.1に反映しなかった案件
- NA-MAABとの再調整が必要と判断された案件
- JMAAB Webサイトの投稿フォームに新たに投稿された案件

について議論を進めてきました。

その結果、ガイドラインを改定すべき案件が50件以上蓄積され、新版のリリースを行うことになり、2025年度からCMG V7.0リリースに向けた活動をスタートしました。

2026年度も継続します。

次世代WSは、文字通り次世代を担う若手技術者・次世代リーダーの育成を目的としています。

その中で特にシステム設計経験の少ないエンジニアの技量の底上げに役立つサンプル事例の開発を行っており、2025年度まではシステム開発の上流工程（V字プロセス左側）に注目をし、Requirements ToolboxやSystem Composerといったツールの具体的な活用方法をまとめました。

2026年度は、機械、エレキ要素（Simscape、Vehicle Dynamics Blockset™ など）とSystem Composerの連携によって、システム設計段階で異なる領域の技術者が協力してシステム設計が行えること、またその効果を議論します。

生成AIがMBDのどんなケースで、どのくらい活用できるのか、を参加企業各社で分担して調査し、結果をJMAAB内外に報告しています。

2024年度にスタートし、2025年度は主にChatGPTを検証しました。

2026年度は、MATLAB CopilotなどMathWorks製品のAI機能へも対象を広げ、活用可能性を調査・共有します。

※参加メンバー内で情報共有

半年ごとに新機能が追加され、便利になる一方で
「変化についていけない」「自社でどう活かすべきか分からない」
と感じている方も多いのではないのでしょうか。

本ワークショップは、

同じ悩みを持つ会社が集まり、最新のSimulink機能を一緒に確認・共有する
ことを目的とした活動です。

新リリースのポイントや実務で使えるような機能を、参加メンバー同士で情報共有しながら整理していきます。

一社では追いきれない調査を、みんなで効率よく進めたい方におすすめです。

※R2026aのリリース後に活動再開

※参加メンバー内で情報共有

「Simulink機能確認WS」と同様に、MATLABのリリースごとに追加されるPolyspaceの新機能や効果的な使い方を調査し、共有したり、改善要望をまとめる活動をしています。

2023年にスタートし、これまでに、BugFinderによる独自ルールチェックの仕組みやPolyspaceTestの評価を実施しました。

2026年度は、主にPolyspace copilotについての評価に取り組む予定です。

※参加メンバー内で情報共有

JAMBEとの連携時、JMAAB側窓口として活動します（JAMBE側は国内連携ワーキンググループなど）。

ガイドラインなど相互成果物の参照・活用の他、情報交換などが想定されています。

2026年度は、相互の成果物の参照促進に関する課題とその対応の議論などを行っていく予定です。